



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



県内書店、感染症題材のコーナー設置

2020年4月9日朝刊



カミユの小説「ベスト」など感染症が題材の本が並ぶ谷島屋パルシェ店
＝6日、静岡市葵区

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、フランス人作家アルベール・カミユが書いた小説「ベスト」など、疫病や感染症を題材にした旧作が注目を集めている。県内書店では同作を中心に、新型コロナウイルス関連の書籍を加えたコーナーを設置する店が増えている。

県内に18店舗を展開する谷島屋 徐々に冊数を伸ばし、3月は1月（本店・浜松市中区）では、19の約15倍の売り部数に達している。69年初版の新潮文庫版「ベスト」という。

「ベスト」は47年に発表された月の数冊程度だったのが2月以降 カミユの代表作。アルジェリアの

カミユ

脚光

①記事の口に入る小説の作品名を書きなさい。

()

②記事の見出しに「冷静な行動の参考に」とある。「冷静な行動」とは、どのようなことをさしているのか。記事を参考に20字以内で書きなさい(句読点を含む)。

コロナ禍「冷静な行動の参考に」

都市で発生した原因不明の疫病により外部と遮断された町で、病やそれに伴う不条理と闘う医師らの姿を描く。谷島屋パルシェ店（静岡市葵区）の金崎益巳店長（40）は購入層について「ビジネスマンを中心に男性が目立つ。前代未聞の事態を前にして作品の世界に関心が持たれている」と話す。

同店では、「ベスト」やカナダの歴史家マクニールが書いた「疫病と世界史」（中公文庫）など旧作に新作を織り交ぜた14点をコーナー展開している。「うわさやデマに踊らされず冷静な行動を取ってほしい」（金崎店長）との思い

から「うわさとは何か」（松田美佐著、中公新書）も加えた。

同市葵区のMARUZEN&シンク堂書店静岡店でも「ベスト」や「首都感染」（高嶋哲夫著、講談社文庫）、「感染症の世界史」（石弘之著、角川ソフィア文庫）など旧作を中心に20点を陳列。宗形康紀副店長（35）は「先行き不透明な中、何らかのヒントを得たいと考える人が手に取っている。作品を通して状況を俯瞰（ふかん）し、冷静に対処する参考になれば」と話す。

（文化生活部・柏木かほる）

文庫100万部突破

海外でも人気

新潮社は8日、人気に火が付いた文豪アルベール・カミユの長編小説「ベスト」（新潮文庫）の発行部数が、100万部を突破したと発表した。

同社によると「ベスト」は1947年にフランスで発表。ベスト感染症の拡大防止のため封鎖されたアルジェリアの港町で闘う医師ら

を描く。

新潮文庫版は69年刊行。最近では毎年5千部ほど増刷していたが、今年是国内に感染が広がった2月以降に計7回、15万4千部を増刷し、累計約104万部となった。イタリヤやフランス、英国でも売れており、同社は「災厄や困難に直面した人間がどのように振る舞い、いかに生きるべきかを問い掛けているからではないか」とみて

年 組 名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

（中学校・高校／国語・保健体育）